

# 日本共産党台東区議会議員団

政治を前に動かし、問題点はただす  
建設的な野党として全力あげる



茂木 孝孔  
団長・幹事長  
(第 1 回)



杉山 光男  
(区 常文)



橋詰 高志  
(企 文)



秋間 洋  
会計  
(保 予)

昨年の総選挙で国民・区民は、くらしと営業を壊す自民・公明政ノーの明確な審判をくだしました。

ところが区長は、政治の大きな変化を理解していません。後期高齢者医療制度をいまだに支持し、派遣など非正規労働を広げた雇用政策も肯定したままで。

また、低所得者を医療や介護、福祉施策から排除する動きが強まっていますが、台東区はこれに追従しています。

わが区議団は、旧蓬萊中学校跡地を提供して 6 月に開業する民間特養ホームに、生活保護者や低所得者は入居できないこと、オープンした台東病院老健施設のショートステイが高すぎて入れない問題を、この間委員会で追及しています。

上野中央通り地下駐車場・地下道は開業しましたが、ガラガラで、私たちが区民のみなさんとともに警鐘を鳴らしてきた税金のムダ遣いがはっきりしました。旧福井中学校跡地活用も、区民の貴重な財産を大手ゼネコンのミニ開発事業のために差し出すことが明らかになっています。

みなさんとずっと運動してきた少人数学級は、第 3 回定例会で全会一致で意見書を採択。あと一歩まで前進しています。75 歳以上の医療費無料化をはじめ、「区民の貴重な税金や財産は、くらしと営業、健康や介護、子育てや教育など区民のために活かせ」と、さらに奮闘してまいります。

今年は参議院議員選挙があります。昨年みなさんが切り開いた政治の変革を、もっと前にすすめるためがんばります。日本共産党は、後期高齢者医療制度の廃止、労働者派遣法の抜本改正、高校の学費無償化など、新政権が国民の願いをかなえる公約については実現のため大いに後押しをします。同時に、後期高齢者医療制度の廃止先送り、沖縄・普天間基地の国内・県内移設、保育所の最低基準緩和など、問題点は厳しくただしていきます。

今年もよろしくお願ひいたします。

## 平成21年 区議会の1年

1月 14日	保健福祉委員会
21日	議会運営委員会
23日	4 常任委員会
30日	議会運営委員会
2月 6日	議会報編集委員会
6日～3月25日	第1回定例会 【区議会委員会条例の一部を改正する条例などを議案41件を可決】
3月 25日	議会報編集委員会
4月 21日	議会運営委員会
24日	4 常任委員会
28日	まちづくり特別委員会 議会運営委員会
5月 13日	議会運営委員会

15日	第1回臨時会 【議長・副議長・議会選出監査委員が決まる】
22日	議会運営委員会
25日	4 常任委員会
27日	議会運営委員会
29日	第2回臨時会 【区長等の給料等に関する条例の一部を改正する条例などを議案5件を可決】
6月 3日	議会報編集委員会
3日～25日	第2回定例会 【平成21年度一般会計補正予算（第1回）などを議案17件を可決】
25日	議会報編集委員会
7月 24日	4 常任委員会
8月 5日	議会運営委員会
25日	4 常任委員会
9月 3日	議会運営委員会
10日	議会報編集委員会

10日～10月23日	第3回定例会 【地方の円滑な行政運営に対する配慮を求める意見書など議案15件を可決】
10月23日	議会報編集委員会
27日	産業建設委員会【行政視察】
29日～30日	子育て支援特別委員会【行政視察】
11月 4日～6日	保健福祉委員会【行政視察】
9日～11日	産業建設委員会【行政視察】
10日～12日	区民文教委員会【行政視察】
11日～13日	企画総務委員会【行政視察】
16日～17日	文化・観光特別委員会【行政視察】
18日	議会運営委員会
25日	議会報編集委員会
25日～12月17日	第4回定例会 【平成21年度一般会計補正予算（第3回）などを議案を可決】
12月17日	議会報編集委員会

# いぶきの会

台東区の「坂の上の雲」を目指す  
時代を変える情熱、継続中!!



田中 伸宏  
幹事長  
(企 文)



堀越 秀生  
政調会長  
(企 予 自)



東 久仁子  
会計  
(保 開)

「明晰な目的樹立、そして狂いない実施方法、そこまでのことは頭脳が考える。  
しかしそれを水火のなかで実施するのは頭脳ではない。性格である。平素、そういう性格をつくらねばならない」

—「坂の上の雲」より抜粋—

上記の文章は、昨年秋から始まったNHKドラマ『坂の上の雲』、その原作となった司馬遼太郎さんの小説の一節です。

明治初頭、極小なアジアの一国であった日本を日露戦争で勝利に導いた軍人・秋山好古・秋山真之兄弟と、文学界に大きな足跡を残した俳人・正岡子規。四国の松山を同郷とする三人に焦点をあて、日本が世界へと飛躍する激しい時代の青春群像を描いた名作。ご存じの通り、主人公の一人である正岡子規は台東区根岸に居を構えた、我々台東区民の先輩でもあります。彼が生きた時代と同様、今を生きる我々も時代の大きな変革期を生きています。政権交代がなされ、国や地方自治体に依存していた既得権層は崩壊前夜であり、自主性と公平性を求める“明瞭な政治の時代”となりました。当然のことながら、今までの日本人が甘受した“慣れ合い政治”とは一線を画した、自立と自主性に基づいた“厳しい政治の時代”が到来しています。

昔を懐かしみ、“旧体制”への甘えから脱しないまま生きるのか。それとも次世代を生きる子供たちに“我々の時代の借財”を残さないように努力するのか。各人が真剣に考えるべき時なのです。我々“いぶきの会”は今までと同様、これからも“政治の既存系列のしがらみ”に囚われることなく是々非々で諸問題に取り組みます。台東区の【坂の上の雲】を目指して。

今年も、宜しくお願ひ申し上げます。

悟りとは平気で死ぬことではない。  
平気で生きていくことだ。

—正岡子規—